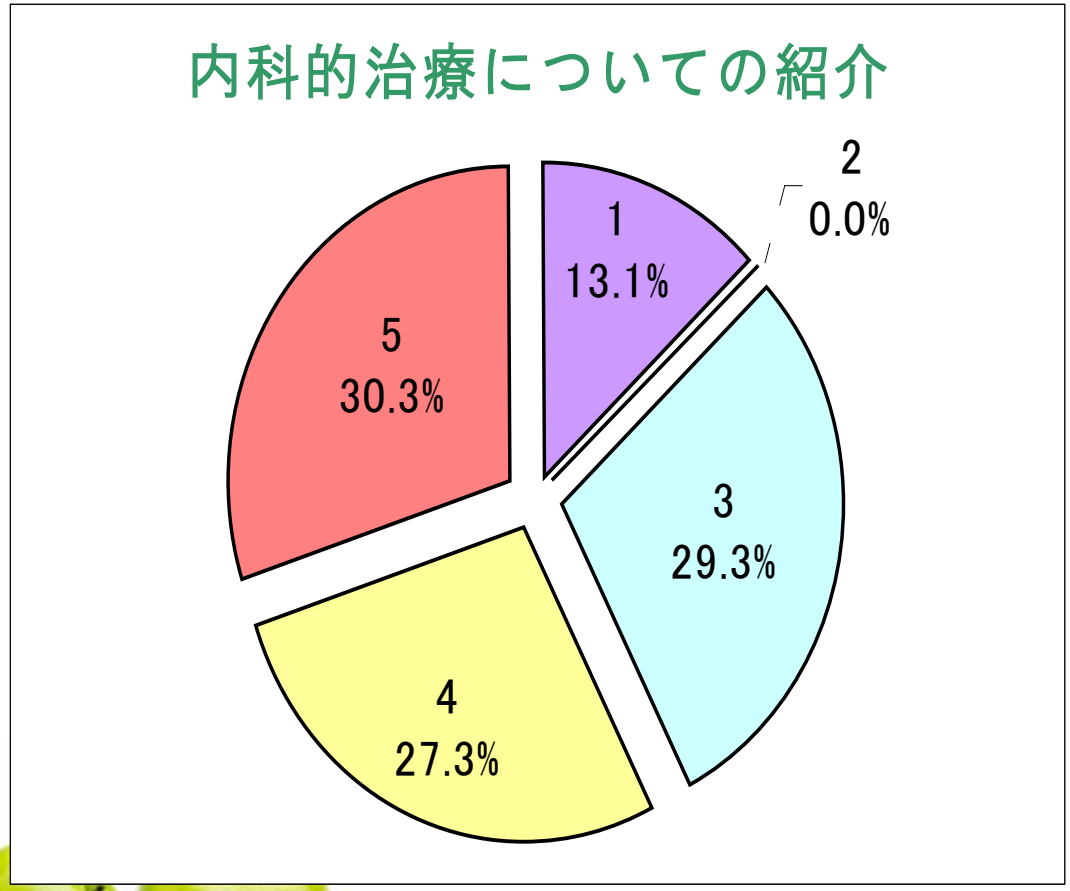
通院支援事業報告会

通院支援事業評価

- 利用者6名に対し、支援者7名が通院支援を実施

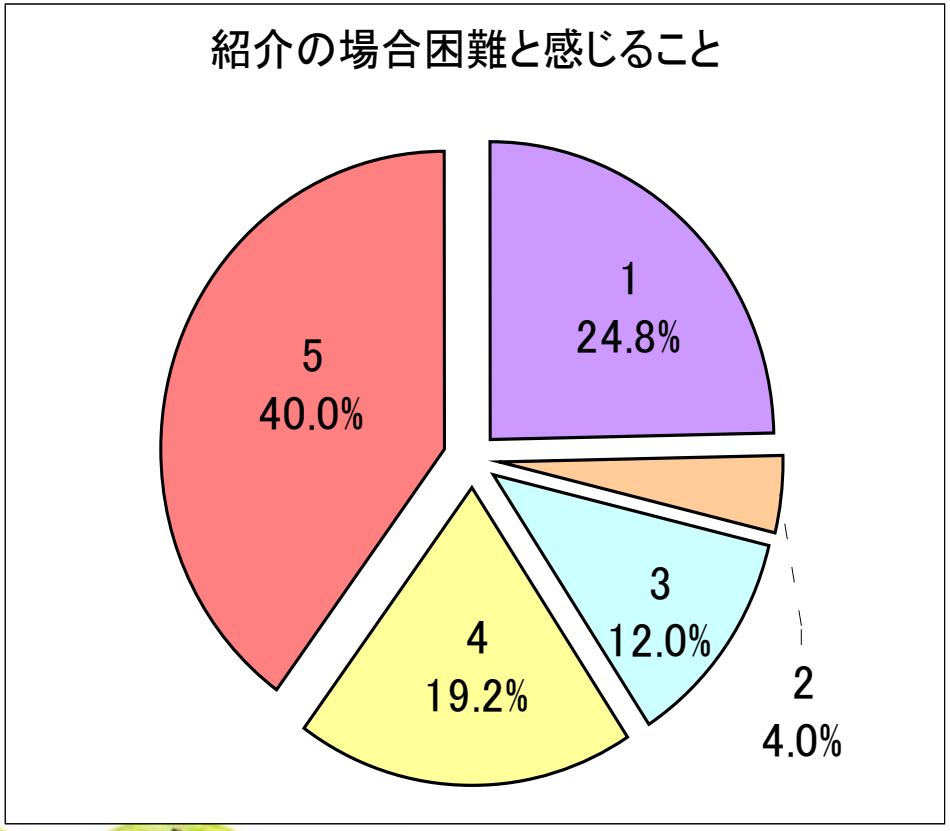
- 対象者別に、通院支援事業について評価を行った
  1　依頼者（精神科医）：アンケート調査より
  2　利用者：個別面接にて聴取した
  3　支援者：実施した支援者のみでグループで行った
  7名のうち、5名参加
  （当事者2名、福祉従事者3名）

1依頼者から:内科治療の紹介



1	精神科を有する総合病院への身体科へ紹介	13
2	精神科を有する総合病院の精神科へ紹介	0
3	近医内科を紹介	29
4	患者さん自身のかかりつけ内科医へ紹介	30
5	主治医が内科的治療を行う	30

依頼者から：内科紹介における困難



1	患者さんが受診したがらない	31
2	家族が受診させたがらない	5
3	内科医が精神障害者に対してきちんと対応してくれない	15
4	対応してくれる内科医についての情報が乏しい	24
5	特に紹介に際して困ることはない	50

複数回答

依頼者から：望ましい制度、サービス

1	内科診療所、内科系総合病院の精神障害者への受け入れに関する情報	51　名
2	内科診療所、内科系総合病院の専門領域に関する情報	45　名
3	内科診療所、内科系総合病院の設備に関する情報	18　名
4	精神障害者への内科的治療に積極的な医療機関についての一覧（マップ）	46　名
5	ガイドヘルパーによる受診の同伴など患者さんの内科受診を援助してくれるサービス	36　名

複数回答

内科医からのアンケート

1	精神障害者や精神疾患に関しての精神科医による講演会等での情報	7
2	精神科医との協力体制についてのシステム作り	27
3	精神障害者への内科的治療に積極的な医療機関や精神科を有する総合病院等についての一覧（マップ）	7
4	ガイドヘルパー等による受診の同伴等、患者さんの内科受診を円滑にするサービス	25
5	その他	3

2　利用者から：利用するきっかけ

- 身体疾患への不安
  検診にいきたいとおもっていたときだった

- 周囲のすすめ
  肥満傾向を気にする授産施設の職員から
  両親から
  精神科主治医から

- 支援事業への協力

利用者から：利用してよかったこと

- 通院が可能となったこと
  一緒に行く人がいると、時間を守って、ちゃんと行こうと思った
- 安心感
  ・すぐそばに人がいるという安心感
  ・移動や手続きなどの理解が早くて、スムーズにやれた
  ・知らない場所に一人で行くことは難しかったのでよかった
- はなしをすること
  ・診察室で普段めったにしない病気の話を語り合えてよかった支援者が同姓である事
  ・同姓同士で緊張もしなかったし、やさしくしてもらってよかった
- 食事をしたこと
  待ち合わせの時間に食事をしたことがとても楽しかった
  （やりたいけれどめったに出来ないこと、またやりたい）

利用者から：利用後の変化

- 身体疾患への不安の軽減

「とにかく結果がわかって、ほっとした」

「特に問題がなかったので、安心した」

- ひきこもりからの脱出

「家から一歩でることが、大変。一旦出ればいい。またデイケア等に通うことにした。」

「内科にきちんと通おうと思った。ついでに、同じ建物内の眼科も受診してめがねを買い替えた。」

- 健康への関心の広がり

「ストレッチ体操をはじめた」

「肥満を意識した食事をとるようになった」

利用者から:一言

- 「助かりました、ありがとうございます。」
- 調子が良いときだったので、当日の待ち合わせでも大変ではなかった。でも体調が悪かったら、何度かあって自分の事をきちんと知ってもらってやってもらいたい。
- 支援者が同姓で話しやすかった。
  異性であったので、何を話してよいか困った。
- 当事者による支援は、逆に気を使うことはあった。しかし、お互いに連絡を再度とってお互いに楽な方法を一緒に考えて通院することが出来る
- よかったので、他の人にも紹介したい。

3　支援者から：研修について

- 対応に関するロールプレイをしたのはイメージができてよかった
- 受診の結果が悪かった時の声のかけ方の練習は必要か。
- 広田さんの話はよかったけど、通院支援とは結び付かなかった、むしろ不安になった
- DVDは、実際の流れとずれがあった

支援者から：事前面接

- 事前面接は必要、仲介者、支援者、利用者3者で行う
- 時間は1時間程度（自宅にいって母親、ヘルパーにあい計3時間かかった方もいる）
- 事前に受診外来を把握しておく（受ける外来がわからないというのはまずかった）
- 事前に書いてあるフェイスシートをもらえるのかとおもっていた。
- 待ち時間の過ごし方を聞いておいてよかった

支援者から:実施してわかったこと

- 受診外来のシステムを理解しておく(診療科目によっては、受診曜日が限定されているなど)
- 待ち合わせ場所が、自宅でない場合には、連絡がとれない可能性も高い
- 前日に電話で最終確認をすることは、双方にとってよかった
- ほぼ初対面で外出同伴という支援は、行為自体が緊張するものである→生活支援で関係が取れた中で実施していくほうがよいのではないか
- 異性利用者であるとまずい？？

支援者から:今後の課題

＊事前契約に必要な項目

- 支援者の昼食、お茶代の負担
- 支援内容でできること、できないことを明確にした資料に基づいて、事前面接で確認しておく
- 待ち時間の過ごし方、金銭的なこと、利用回数

＊必要な書類

- 事前面接に関する報告書
- 診察同伴の場合、診察内容、次回外来日を記入する用紙(本人などに渡すもの）

支援者から：今後の課題

- 相談、仲介体制・・・トラブルの回避
- フェイスシートによる情報把握（ケースバイケース）
- 待ち時間、一緒にいるだけで算定できるのか。
  介護系は自費でやっているところもある。
- 次回の診察などの情報提供資料を本人に渡す、家族、関係者への報告を支援に入れ込むか（支援者側としては、家族に報告することが責任かと思っていた。）

まとめ

- 今回、依頼は少なかったが、依頼側としても通院支援サービスは望ましいものと考えている。
- 通院支援は、内科受診のよいきっかけとなり、通院による不安を減少させるものである。
- 内科受診行為を実施するだけにとどまらず、ひきこもり、他者との交流といった付加価値もある
- 外出に関する支援は、事故などのリスク発生の確率を高めることもあり、支援者側の緊張、不安を高める
- 個人情報に関しては、重度、状態によって詳細であったほうがよい
- 自費負担、支援内容などについてはより細やかな規定、契約が必要
- リスク回避、相談などのための仲介システムの必要性